

どまりであるし、花冠上唇は卵形か舌状である。然しこの植物は全體が大きく花は2~4 cm、上唇は圓形であるなどハナウリクサ屬に似る。最も近いのはニューギニア、オーストラリアからインド、アフリカにかけて熱帯地方に廣く分布し、3種類ほど知られている *Artanema* である。然しいくつかの點で *Artanema* とも一致しないし、*Artanema* の實物をみる機会がないので、多くの疑問が残されている。

Vandellia nutans. いつけんコナスビを思わせるような1年生の草である。花期には花が上にむいているが、花後下垂する特徴が目立つ。假軸分枝をする點、今まで知られたウリクサ屬がみな單軸分枝であつたのと著しく異なる。おしべの附屬突起は大きな球形で、多數の腺點で被われている、このようなよく發達した附屬突起を持つものは今までのウリクサ屬にはみられず、*Craterostigma* の特徴の一つとされているものである。

Vandellia ligulata. 萼は5裂片からなるが、上部3裂片と下部2裂片が、それぞれ不規則に半ば以上融合する傾向があり、5裂片がすべて融合しているウリクサと5裂片が基部まで離れている他のウリクサ屬の種類との中間的な性質をもつ。ウリクサは萼が融合している點でハナウリクサ屬としてあつかわれたこともあつたが、屬を區別するほど萼の性質が特異なものでないことが、この中間的な種類から示される。又この植物は花冠の上唇が舌状であり、卵形の上唇をもつウリクサ屬の多くの種類とは異り、スズメノトウガラシ類の性質に似る。然しおしべの形態はウリクサ類に一致する。

Vandellia perennans. 癒合した萼をもつ點ウリクサに似るが、多年生で木化した莖をもつ點異つている。インドシナから2種類報告されている *Geoffraya* は葉は線形であるが、花の形や多年生である點似ている。又中央アフリカ・南アフリカから20種ほど知られている *Craterostigma* も似たような性質をもち、これらが1連の群であることを想像させる。

Trichotaenia saginiformis. Bonati 氏はこれをウリクサ屬に入れたが、子房に毛状突起がある點で異なる。花冠の基部内面に帶狀に軟毛を有する點もウリクサ屬にみられない性質であるので、新屬をたてた。

○カボンバの水上葉 (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: On the floating leaf of *Cabomba caroliniana* A Gray.

カボンバ すなわちハゴロモモの水上葉は橢圓形楕形であることは周知の事實であるが、昨年中野治房博士は千葉縣の安食で葉の下半部が裂けて居るため矢狀になつてゐるものを得られた。そうして同地のもは全部それであつたとのことである。あわてると、新名がほしくなるが、米國の本を色々見ると、あちらには、往々あるらしい。恐らくそんなレースが安食に従來のものと別の經路ではいつて來たものと思われるが面白いことである。